詩歌および推理小説の読書経験と読書態度との関連 (1)

—読書態度尺度の開発とその検討—
 深谷 優子
 (東北大学大学院教育学研究科)
 キーワード: 読書, 推理小説, 俳句

A Relation of Reading History to Reading Style
 Yuko FUKAYA
 (Graduate School of Education, Tohoku University)
 Key words: reading style, mystery novels, haiku

目 的

俳句に代表される詩歌は、その読解時に省略された表現を復元ないし拡充する過程が必要とされる (cf., 皆川, 2005)。この心的過程について、深谷 (2008) は具体化・吟味 (精緻化) の過程であり、詩歌だけでなく推理小説の読解時の過程と関連する可能性があること、を指摘している。そこで本研究では、詩歌や推理小説の読書時の態度を測定するような尺度を開発し、実際の読書経験との関連を検討する。これにより、俳句やその他情報の復元ないし拡充が必要とされる心的過程への示唆を得ることが、本研究の目的である。

方 法

調査協力者: 大学生 261 名。データに不備のあった 60 名を除く 201 名を分析対象とした。

材料: 読書態度 (75 項目, 6 件法), 読書経験 1 (文芸家 50 名の既知/未知判断, 2 件法), 読書経験 2 (文芸家 50 名の作品読了判断, 2 件法) からなる質問紙を用いた。読書態度の項目作成にあたっては、事前に大学生 124 名に「好きな作品名とその推薦書」「推理小説が好き/嫌いな理由」を自由記述で回答させた内容を参考にした。読書経験で対象とした文芸家の内訳は、文豪 15 名, 詩人・歌人・俳人 10 名, 芥川賞受賞作家 10 名, 日本推理作家協会賞受賞作家 15 名である。

結 果

1 読書態度の尺度作成 読書態度 75 項目の因子分析を行い、固有値およびスクリープロットから 5 因子を採用した (主因子解, プロマックス回転)。下位尺度名と負荷量の大きい 3 項目は以下の通りである。「1 読書回避傾向」(「I35 事件や事故の話はこわいので、読みたくない」「I43 主人公に共感できない話は、読みたくない」「I44 現実味に欠ける設定の話は、読みたくない」等 23 項目。α=.861), 「2 読書熱中傾向」(「I22 小説を一気に集中して読むほど熱中したことがある」「I51 繰り返し読んでもおもしろい小説はある」「I25 何度も読み返すほど、好きな話がある」等 12 項目。α=.885), 「3 展開の意外性受容傾向」(「I60 意外な展開になるのが、おもしろい」「I68 謎が解決していく話は、好きだ」「I39 先が読めそうで読めない話は、おもしろい」等 12 項目。α=.852), 「4 共感重視傾向」(「I32 自分と共通点のある登場人物のいる話が好きだ」「I57 自分にも起こりうるような話が好きだ」「I75 泣ける話を読みたい」等 14 項目。α=.817), 「5 思索専念傾向」(「I64 読んでいて、頭を使う話が好きだ」「I58 自分で予想しながら読むのが好きだ」「I38 自分でいろいろ考えながら読むのが好きだ」等 15 項目。α=.856)。因子間相関は Table1 のとおりである。

Table1 読書態度尺度の因子間相関

	1 読書回避	2 読書熱中	3 意外性受容	4 共感重視	5 思索専念
2 読書熱中	-0.429				
3 意外性受容	-0.118	0.399			
4 共感重視	0.135	0.222	0.373		
5 思索専念	-0.173	0.433	0.384	0.257	

2 読書態度と読書経験との相関 読書経験 (Table2) と読書態度尺度との相関は Table3 のとおりである。

Table2 読書経験の平均と標準偏差

		平均値	標準偏差	範囲
文 既 芸 知 家 の	文豪	11.612	± 2.490	0 - 15
	詩歌俳	5.915	± 1.794	0 - 10
	芥川賞	4.413	± 2.235	0 - 10
	推理	5.950	± 3.163	0 - 15
文 読 芸 了 家 済	文豪	5.816	± 3.045	0 - 15
	詩歌俳	2.468	± 2.074	0 - 10
	芥川賞	1.622	± 1.714	0 - 10
	推理	2.622	± 2.533	0 - 15

Table3 読書態度と読書経験の相関

		1 回避	2 熱中	3 意外性	4 共感	5 思索
文 既 芸 知 家 の	文豪	-.107	.111	.107	-.007	.097
	詩歌俳	-.035	.088	.071	-.045	-.014
	芥川賞	-.121	.247**	.118	-.041	.138
	推理	-.183**	.353**	.257**	-.152*	.133
文 読 芸 了 家 済	文豪	-.263**	.369**	.275**	.082	.361**
	詩歌俳	-.146*	.220**	.125	-.019	.201**
	芥川賞	-.185**	.294**	.149*	.016	.224**
	推理	-.283**	.466**	.406**	-.011	.324**

* 5%水準で有意, ** 1%水準で有意。

読了済文芸家数との関係を見ると、読書態度のうち「2 読書熱中傾向」と「5 思索専念傾向」とに正の相関が、「1 読書回避傾向」に負の相関が一貫して見られたことから、これらの尺度は一般的な「読書好き」の複数の側面を測っているものと思われる。また、「3 展開の意外性受容傾向」に関しては推理作家の読了数との相関が高く、この意外性受容傾向の程度が推理小説の読解に関与している可能性が示唆される。

考 察

今回の読書態度 75 項目から構成された 5 つの読書態度のうち、「3 展開の意外性受容傾向」が推理小説の読書経験に特有な側面を測る尺度であることが示された。ただし、詩歌の読書経験に特有な読書態度の尺度は見出せなかった。これには今回の調査協力者において詩歌の読書経験が少なかったことも影響していると推察される。本研究で作成した読書態度尺度は、今後より洗練させる必要がある。そのうえで、推理小説の読解と、俳句のように復元ないし拡充が必要とされる読解とに関連する能力や個人特性についてさらに吟味することが今後の課題である。

引用文献

深谷 優子 (2008). 俳句理解における心情把握と読書経験との関連 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 57(1), pp.167-172.
 皆川 直凡 (2005). 俳句理解の心理学, 北大路書房.